

# 「三里塚・国鉄」決戦で中曽根打倒の85年へ

動労千葉は1月12日、県労働者福祉センター大ホールにおいて「一九八五年団結旗開き」を開催する。

中曽根の軍事大国化・改憲にむけた大反動攻勢が激化しているなかで、これと対決し勝ちぬぐために「旗開き」をその戦闘宣言の場として総決起しようではないか。

## 労働者の未来をかけて 総決起しよう

一九八五年は文字通り、労働者階級の未来を決する年になることはまちがいない。

中曽根は来年度予算案として、運輸省、空港公団が要求した22億円の二期工事関連予算を認め、4月工事着工を強行せんとしている。加えて1月6日、伊勢神宮に参拝して記者会見した中曽根は、「今年の内政課題として国鉄・教育改革に全力をあげる」と言明した。

まさに、「三里塚」と「国鉄」に基軸をすえ、中曽根の側から「戦後政治の総決算」をかけて決戦を挑んできているのだ。

われわれがこの攻撃にすくみあがり、闘わずして屈するならば真正正銘、「敵の思うツボ」にはまるのだ。

今年こそ労働者の未来をかけて総決起し、闘いぬこうではないか。

## 臨調・当局への屈服

「国鉄再建」論議埋没を一掃しよう

一九八五年は、ここ数年来、多くの場所で語られてきた「国鉄再建論」に結論が出される。

12月31日、国鉄当局は「独自の再建案」を発表した。

それによると、①民営化するが、当面は現在の組織を維持、②将来とも全国一本に固執しない、③ローカル線の大半を切り離す、④年間数兆円の助成金を国などからもらう、としており、大合理化・大量人員削減、ローカル線切り捨てで「再建」できるとしている。

一方、国鉄再建監理委員会は昨年8月の「分割・民営化」提言にそつた最終答申を、七月にも行おうとしている。

敵の狙いは国鉄労働運動の解体にあるのであり、合わせて、自民党・財界が「国鉄再建」を錦の御旗に権利をあさるといふ反動的意図に貫かれたものであり、断じて許すことはできない。

ところが、労働運動の側の多くが敵の土俵にのっかり、「再建」論議に埋没している否定すべき現状にある。動労「本部」革マルにあつては、「国鉄を残すために骨身を削って努力しなければならぬ」骨身を削って働けば再建できる」なる資本主義擁護論をふりまき、首切り「三本柱」攻撃に「組織をあげて休職しよう。出向しよう」といきり、「60・3ダイ改」大合理化についても全面協力を誓い、裏切りの道をつき進んでいる。

## 3・24三里塚への三たびの5割 動員を実現しよう

労働者の怒りは、もはや沸騰点に達している。この怒りを爆発させ、汚れた流れを変えなければならぬ。

動労千葉は、三里塚芝山連合空港反対同盟との労農連帯を基軸とした闘い、とりわけ81・3ジェット闘争の貫徹によつて組織的強化をかちとり、その成果のうえに敵の凶暴な攻撃をはね返し勝利的に闘いぬいできている。

この「三里塚を闘う労働運動」路線のさらなる強化と、全国的拡大こそが今求められており、ここに勝利のカギがある。

3・24三里塚への三たびの5割動員実現と、国鉄労働者二千の大部隊を先頭に広範な労働者の結集をかちとり、二期阻止の闘いと結合した国鉄決戦の爆発をなんとしても実現し、この闘いのなかで動労「本部」革マルの追放・一掃をかちとろう。全組合員の力で「旗開き」を成功させ、いざ決戦にうつてよう。

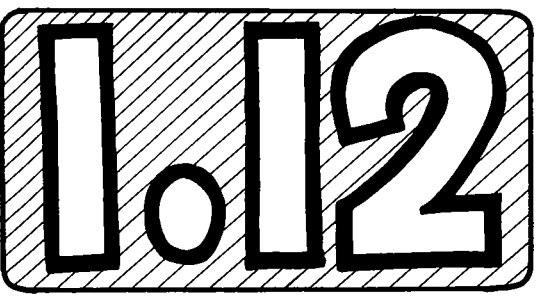
一九八五年一月十二日（土）午後一時

千葉県労働者福祉センター大ホール

第一部 基調講演 中野委員長

第二部 連帯の挨拶とアトラクション

各界よりの連帯の挨拶、鏡開き、各支部対抗歌合戦、ほか。



# 1.12 団結旗開きに結集しよう

臨調・行革粉碎！ 三里塚ジェット闘争勝利！